三世代家族などが、正の影響を及ぼしていることがわかる。

表 10- 6　子育てプラス感に影響する諸要因

モデル	非標準化係数 B	非標準化係数 標準誤差	標準化係数 ベータ	t	有意確率	相関係数 ゼロ次	相関係数 偏	相関係数 部分
(定数)	.278	.086		3.232	.001			
子ども無	.300	.060	.128	5.008	.000	.172	.108	.104
生活不満足	.221	.048	.100	4.627	.000	.125	.099	.096
女性	-.223	.043	-.111	-5.222	.000	-.115	-.112	-.108
男性役割賛成	-.153	.050	-.070	-3.058	.002	-.077	-.066	-.063
高校	.147	.043	.072	3.449	.001	.072	.074	.072
健康不満足	.200	.065	.067	3.103	.002	.092	.067	.064
3歳児神話賛成	-.137	.048	-.065	-2.862	.004	-.081	-.062	-.059
若年	-9.E-02	.043	-.047	-2.174	.030	-.010	-.047	-.045
三世代	-.220	.077	-.089	-2.850	.004	-.059	-.061	-.059
核家族	-.136	.067	-.066	-2.043	.041	-.060	-.044	-.042

表 10- 7　子育て負担感に影響する諸要因果

モデル	非標準化係数 B	非標準化係数 標準誤差	標準化係数 ベータ	t	有意確率	相関係数 ゼロ次	相関係数 偏	相関係数 部分
(定数)	.438	.051		8.522	.000			
子ども無	-.392	.052	-.167	-7.601	.000	-.171	-.162	-.157
女性	-.320	.042	-.160	-7.639	.000	-.134	-.163	-.157
生活不満足	-.184	.049	-.083	-3.763	.000	-.121	-.081	-.078
若年	-.172	.043	-.087	-4.035	.000	-.132	-.087	-.083
三世代	.188	.052	.076	3.623	.000	.114	.078	.075
家計不満足	-.167	.046	-.081	-3.629	.000	-.078	-.078	-.075
高校	.102	.042	.050	2.400	.016	.040	.052	.049

表 10-7 の子育て負担感については、子どもがいないこと、女性であること、世代が若いことのほかに、生活不満足、家計不満足が強い負の影響力を及ぼしており、三世代家族であることが、正の影響を及ぼしていることがわかる。

また、表 10-8 の子育て孤立感については、女性であること、子どもがいないことのほかに、生活不満が高いことが負の影響を及ぼしている。とはいえ、家計収入が低いことが子育て孤立感を高めるわけではなく、家計収入が 400 万円未満であること、他方、年収 700 万円未満であることが、子育て孤立感を低くする要因となっている。

表 10- 8　子育て孤立感に影響する諸要因

モデル	非標準化係数 B	非標準化係数 標準誤差	標準化係数 ベータ	t	有意確率	相関係数 ゼロ次	相関係数 偏	相関係数 部分
(定数)	.489	.045		10.930	.000			
女性	-.649	.047	-.322	-13.774	.000	-.371	-.285	-.270
子ども無	-.275	.048	-.116	-5.769	.000	-.049	-.124	-.113
無職	-.274	.051	-.116	-5.336	.000	-.246	-.114	-.105
生活不満足	-.214	.045	-.096	-4.780	.000	-.110	-.103	-.094
家計400万円未満	.141	.052	.058	2.711	.007	-.025	.058	.053
年収700万円未満	.111	.054	.048	2.071	.038	.215	.045	.041

（5）子どものいない女性たちの子育て感

対象者のなかから、子どものいない女性だけを選んで、子育て感に影響する要因を探ることにした。

表 10-9 から表 10-11 である。

まず、表 10-9 の子育てプラス感では、世代が若い層で、3 歳児神話を支持している女性において、子育てプラス感が比較的高いという結果になっている。

また、子育て負担感については、表 10-10 から、世代の若い層において、負担感が大きいという要因だけが、見いだされた。

さらに、子育て孤立感についてみると、年収 700 万円以上と、女性のなかでは高所得の人々において、子育て孤立感が高いと解釈することができる。

男女共同参画社会の実現に適応した生き方をしている女性たちにとって、子産み・子育てが、プラスのイメージよりも、負担感や孤立感につながっている状況が改めて明らかになった。

表 10- 9　子どものいない女性の子育てプラス感に影響する要因

モデル	非標準化係数 B	非標準化係数 標準誤差	標準化係数 ベータ	t	有意確率
(定数)	1.165	.188		6.202	.000
若年	-.784	.177	-.289	-4.429	.000
3歳児神話賛成	-.601	.168	-.234	-3.583	.000

表 10- 10　子どものいない女性の子育て負担感に影響する要因

モデル		非標準化係数 B	非標準化係数 標準誤差	標準化係数 ベータ	t	有意確率
1	(定数)	-.217	.113		-1.921	.056
	若年	-.358	.133	-.184	-2.687	.008

表 10- 11　子どものいない女性の子育て孤立感に影響する要因

モデル		非標準化係数 B	非標準化係数 標準誤差	標準化係数 ベータ	t	有意確率
	(定数)	-.591	.067		-8.796	.000
	健康不満足	.715	.196	.245	3.639	.000
	年収700万円以上	-.972	.457	-.143	-2.128	.035

（6） 有配偶、子どもあり女性の子育て感に影響する諸要因

今度は、有配偶で子どもありの女性の子育て感に影響する諸要因について検討する。

表 10-12 から表 10-14 である。

配偶者からの評価不満足、配偶者からのアドバイス不満足、家計不満足が子育てプラス感に負の関連をし、３歳児神話賛成、三世代家族であることが正の関連をする。

また、生活不満足、配偶者との性関係不満足、家計不満足、夫のみ就業は、子育て負担感に影響するが、他方、三世代家族であることは、子育て負担感を下げることを示している。

表 10-14 によると、夫婦関係不満足、配偶者の育児不満足、配偶者の傾聴不満足、および、無職であることが、子育て孤立感に関連していることがわかる。

表 10- 12　有配偶・子どもあり・女性の子育てプラスプラス感に影響する要因

モデル		非標準化係数 B	非標準化係数 標準誤差	標準化係数 ベータ	t	有意確率
	(定数)	-.301	.060		-4.992	.000
	配偶者･評価不満足	.333	.068	.187	4.862	.000
	健康不満足	.213	.081	.087	2.639	.008
	3歳児神話賛成	-.171	.056	-.099	-3.042	.002
	三世代	-.155	.062	-.081	-2.477	.013
	配偶者･アドバイス不満足	.157	.072	.083	2.172	.030
	家計不満足	.119	.057	.070	2.085	.037

表 10- 13　有配偶・子どもあり・女性の子育て負担感に影響する要因

モデル	非標準化係数 B	非標準化係数 標準誤差	標準化係数 ベータ	t	有意確率
(定数)	.136	.071		1.928	.054
生活不満足	-.201	.080	-.094	-2.499	.013
三世代	.204	.076	.091	2.671	.008
配偶者との性関係不満足	-.207	.077	-.094	-2.683	.007
夫のみ就業	-.166	.066	-.085	-2.516	.012
家計不満足	-.166	.072	-.084	-2.299	.022
高校	.144	.067	.073	2.164	.031

表 10- 14　有配偶・子どもあり・女性の子育て孤立感に影響する要因

モデル	非標準化係数 B	非標準化係数 標準誤差	標準化係数 ベータ	t	有意確率
(定数)	9.6E-02	.056		1.725	.085
夫婦関係不満足	-.229	.099	-.101	-2.328	.020
無職	-.342	.067	-.174	-5.104	.000
配偶者・育児不満足	-.260	.082	-.125	-3.165	.002
配偶者・傾聴不満足	-.242	.094	-.101	-2.584	.010
若年	-.148	.067	-.075	-2.207	.028

（7）　有配偶・子どもありの男性における子育て感に影響する諸要因

表 10-15 から、有配偶・子どもありの男性における子育てプラス感には、夫婦関係不満足、配偶者との関係不満足が負の関連がみられ、他方、男性役割賛成は正の関連があることがわかる。

また、表 10-16 は、家計不満足、生活不満足、夫のみ就業、配偶者とのトラブルが、子育て負担感を高める要因であり、三世代であること、３歳児神話に賛成であることが、子育て負担感を低下させる要因であることを示している。

子育て孤立感は、有配偶・子どもありの男性においては、最も低く、そんななかで、表 10-17 のように、夫が妻から評価されないと感じる状況になれば、子育て孤立感が高まることもあるようだ。

有配偶・子どもありの男性における要因と女性における要因の類似性が高いことを指摘できる。配偶者との関係についての満足・不満足が子育てプラス感に重要な影響をおよぼしており、また、男女ともに、３歳児神話や男性役割など、ジェンダー規範を支持してい

るほど、子育てプラス感が高くなっている。

子育て負担感についても、男女で類似点が多い。すなわち、生活不満足、家計不満足、夫のみ就業、夫婦関係不満足が、子育て負担感を高める要因であり、三世代であることが子育て負担感を下げる要因となっているのである。

子育て孤立感についても、男女ともに、配偶者から認められないことが、子育て孤立感を高める要因になっていることがうかがえる。

表 10- 15　有配偶・子どもありの男性における子育てプラス感に影響する要因

モデル	非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	7.0E-02	.075		.933	.351
夫婦関係不満足	.399	.119	.146	3.350	.001
配偶者・傾聴不満足	.278	.124	.108	2.243	.025
男性役割賛成	-.229	.082	-.106	-2.788	.005
配偶者・評価不満足	.242	.115	.103	2.095	.037

表 10- 16　有配偶・子どもありの男性における子育て負担感に影響する要因

モデル	非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	.498	.101		4.915	.000
家計不満足	-.221	.083	-.107	-2.654	.008
夫のみ就業	-.251	.079	-.128	-3.163	.002
生活不満足	-.255	.098	-.107	-2.605	.009
三世代	.211	.090	.093	2.349	.019
3歳児神話賛成	.183	.086	.085	2.126	.034
配偶者とのトラブルあった	-.176	.084	-.084	-2.104	.036

表 10- 17　有配偶・子どもありの男性における子育て孤立感に影響する要因

モデル	非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	.507	.041		12.491	.000
配偶者・評価不満足	-.332	.084	-.156	-3.950	.000
若年	.136	.063	.085	2.162	.031

（8） 小括

子産み・子育て意識に関わる項目を因子分析したところ、子育てプラス感、子育て負担感、子育て孤立感の３因子が見いだされた。そこで、因子分析の結果をふまえて、子育てプラス感、子育て負担感、子育て孤立感尺度を構成して、属性の違いによる子育て感の傾向を検討した。それによると、子育てプラス感は、38-47 歳の子どもない女性において最も低く、次で、28-37 歳の子どものいない女性と 28-37 歳、38-47 歳の子どものいない男性、続いて、子どものいる男性、そして、子どものいる女性と高くなる傾向にある。

子育て負担感は、子どものいない女性において最も高く、次いで、子どものいない男性と子どものいる女性、そして、子どものいる男性の子育て負担感が最も低い。
また、子育て孤立感も、子どものいない女性、子どものいない男性、子どものいる女性、子どものいる男性と低くなることが明らかになった。

そこで、子育てプラス感、子育て負担感、子育て孤立感に影響する諸要因を探るために、重回帰分析を試みた。さらに、対象者を条件づけして、同様に、重回帰分析を行った。
子育てプラス感に影響する要因として、子どものいない女性において、世代が低いこと、３歳児神話に賛成の影響力が認められた。裏返せば、３歳児神話に賛同しない女性は、子育てをプラスとは思いにくいことでもある。また、年収の比較的高い女性の子育て負担感が高いことも合わせて、男女共同参画社会の実現にみあった子育て支援施策の立ち後れが、子どものいない女性たちの子育て感にマイナスの影響を及ぼしていることがうかがえる。

有配偶で子どものいる女性と男性では、子育て感に影響する要因として、同様の傾向が認められた。すなわち、夫婦関係の不満足、生活不満足が、子育てプラス感を低下させ、子育て負担感や子育て孤立感を高める傾向にある。他方、三世代世帯であることと、ジェンダー規範を容認していることは、男女ともに、子育てプラス感を高める要因になっている。時代に逆行する意識を保持している人の子育てプラス感が高いという傾向は、子育て支援施策の遅れが一因であると言えるだろう。ただし、夫のみ就業していることは、家計不満足とも関連して、男女ともに、子育て負担感を高める要因になっており、結婚生活の充足感が子育て負担感を低下させるようである。子育て孤立感については、配偶者に対する不満足、そして、女性においては、無職であることが、孤立感を高める傾向にあることを指摘できる。

（神原文子）

11章　年収と学歴が夫婦関係に及ぼす影響：ジェンダー構造

（1）目的と方法

1）　目的

この章では子産み・子育てにおけるジェンダー構造とその地域差・階層差について分析を行っている。子産みにも子育てにも夫婦関係の質は大きな影響力を持つ。子どもを持つ決心をするには良好な夫婦関係が不可欠であろうし、子育てにもふたりの協力が必要である。子育てにおけるふたりの協力という意味で言えば、最近は既婚女性の半数以上が仕事を持つようになり、妻の就業も影響するようになってきている。妻がより強い社会的経済的勢力を持つようになれば、それが夫婦関係の質に影響を及ぼす可能性が考えられる。

本報告では、子産みや子育てと密接な関係を持つ、比較的若い世代（28-47歳）の既婚者を対象として、結婚生活の諸側面における主観的評価について次のふたつの分析を行った。第一に、評価におけるジェンダー差と年代差（同性内における年代による差異）の比較分析を行った。第二に妻の就業と関連する社会的経済的勢力の観点から、学歴と年収（世帯年収および本人年収）をとりあげて、それぞれを階層に分け、階層内におけるジェンダー差と年代差の比較分析を行った。

2）　方法

①調査対象および調査方法

本分析では、28-37歳と38-47歳の既婚男女を抽出し、性別年代別コーホートは、28-37歳の既婚男性（N=347）、28-37歳の既婚女性（N=520）、38-47歳の既婚男性（N=475）、38-47歳の既婚女性（N=617）の4コーホートを作成した。なおコーホートは出生年月をもとに算出した。

②分析に用いた変数

結婚生活の諸側面に対する評価

心理的なサポートと結婚生活の各側面における満足度、そしてトラブルやもめごとの認知の3種類を使用した。心理的なサポートに関しては、「心配や悩みごとを聞いてくれる」、「能力や努力を高く評価してくれる」、「助言やアドバイスをしてくれる」の3項目について、「あてはまる」から「あてはまらない」まで4段階（1-4点）で評定させた。結婚生活の各側面における満足度に関しては、「配偶者の育児や子育て」、「あなたの親に対する接し方」、「配偶者の家事に対する取り組み」、「家計の分配や管理・運営」、「性生活」、「夫婦生活全体」の6項目について、「かなり満足」から「かなり不満」まで4段階（1-4点）で評

定させた。最後にトラブルやもめごとの認知に関しては、「何度もあった」から「なかった」まで4段階（1-4点）で評定させた。トラブルやもめごとの認知については、この一年間に起こったことに限定して質問した。分析ではすべての項目について、評定点を逆転した。たとえば心理的なサポートの場合には、「あてはまる（1→4）」、「どちらかといえばあてはまる（2→3）」、「どちらかといえばあてはまらない（3→2）」、「あてはまらない（4→1）」と逆転した。

学歴

中学から大学院まで6段階で尋ねた。学歴の階層は、「中学・高校」、「短大・専門学校」、「大学4年制以上」の3階層に分けた。

世帯年収

「収入はなかった」から「1600万以上」まで18段階で尋ねた。分析では「収入はなかった」を除外して使用した。世帯年収の階層は「400万未満」、「400-700万未満」、「700万以上」の3階層に分けた。

本人年収

「収入はなかった」から「1200万以上」まで15段階で尋ねた。分析では「収入はなかった」を除外して使用した。本人年収の階層は「400万未満」、「400-700万未満」、「700万以上」の3階層に分けた。

（2）結果

以下の部分では、結婚生活の諸側面に対する評価のそれぞれについて、学歴、世帯年収、本人年収の階層ごとに、性別年代別コーホート比較の分析を行う。

1）結婚生活の諸側面に対する各評価と学歴、世帯年収、本人年収のそれぞれとの相関分析のコーホート比較

最初に、学歴、世帯年収、本人年収のそれぞれが、結婚生活の諸側面に対する各評価に対して持つ直接の効果を調べるために、学歴全体と評価、世帯収入と評価、本人年収と評価との相関分析（Spearman）を行った（表11-1、表11-2、表11-3）。その結果、次のようなジェンダー差が認められた。まず学歴については、夫の評価との間には年代に関わらず有意な相関が認められる変数が多かったが、妻の評価と間には、2変数において認められるのみであった（表11-1）。次に世帯年収については、妻(28-37歳)コーホートの評価との間には有意な相関が多く認められたが、他の3コーホートの評価との間には有意な相関は

認められなかった（1 変数を除く）（表 11- 2)。最後に本人年収については、夫の評価との間には年代に関わらず、有意な相関が認められる変数が存在したが、妻の評価との間には年代に関わらず有意な相関が認められる変数は存在しなかった（表 11- 3)。これらの結果は、夫と妻の間の収入格差や学歴格差による、社会的経済的勢力の差異を反映していると言えよう。つまり夫の場合には、夫自身が十分な社会的経済的勢力（学齢および本人年収）を持っているために、これらの変数と結婚生活の諸側面に対する評価とが関連を持つが、妻の若い年代層（28-37 歳）においては、自分の持つ社会的経済的勢力が十分ではなく、夫が主な稼ぎ手となる世帯年収とが関連を持つ。夫婦関係が社会の文脈の中に深く組み込まれた関係であることを考えると、社会的経済的な意味におけるジェンダー差が夫婦関係や結婚生活に対して持つ影響について考えることの重要性をこれらのデータは示している。

表11-1 結婚生活の諸側面に対する評価と学歴全体との相関分析のコーホート比較(Spearman)

	相関係数				
	全体	夫(28-37才)	妻(28-37才)	夫(38-47才)	妻(38-47才)
心理的なサポート					
心配や悩みごとを聞いてくれる	.11(1942) **	.12(345) *	.07(515)	.16(471) **	.07(611)
能力や努力の評価	.14(1941) **	.16(345) **	.08(515)	.16(471) **	.09(610) *
助言やアドバイス	.11(1942) **	.14(345) *	.07(515)	.13(471) **	.09(611)
結婚生活の各側面における満足度					
配偶者の育児や子育て	.14(1728) **	.17(268) **	.11(459) *	.18(437) **	.06(564)
あなたの親に対する接し方	.08(1767) *	.09(309)	.00(483)	.16(420) **	.04(555)
配偶者の家事に対する取り組み	.10(1920) **	.11(338)	.03(510)	.16(467) **	-.04(605)
家計の分配や管理・運営	.14(1920) **	.11(340) *	.04(357)	.20(467) **	.10(605)
性生活	.03(1816)	.06(331)	-.02(479)	.10(451) *	-.04(555)
夫婦関係全体	.10(1899) **	.08(339)	.03(503)	.21(465) **	.00(592)
トラブルやもめごとの認知	-05(1923) *	-12(341) *	03.(514)	-.06(466)	-.03(602)

* p<.05; ** p<.01
注：( )の中の数字はN

表11-2 結婚生活の諸側面に対する評価と世帯収入全体との相関分析のコーホート比較(Spearman)

	相関係数				
	全体	夫(28-37才)	妻(28-37才)	夫(38-47才)	妻(38-47才)
心理的なサポート					
心配や悩みごとを聞いてくれる	.01(1808)	-.02(323)	.09(472) *	.04(442)	-.00(571)
能力や努力の評価	.06(1807) *	.08(323)	.14(472) **	.05(442)	.02(570)
助言やアドバイス	.03(1808)	.10(323)	.10(472) *	.05(442)	-.02(571)
結婚生活の各側面における満足度					
配偶者の育児や子育て	.05(1614) *	.09(253)	.12(421) *	.08(411)	.02(529)
あなたの親に対する接し方	.05(1646)	.09(289)	.12(442) *	.03(395)	.04(520)
配偶者の家事に対する取り組み	.00(1794)	-.05(319)	.09(468)	.07(439)	-.03(568)
家計の分配や管理・運営	.10(1795) **	.05(320)	.18(467) **	.09(440)	.12(568) **
性生活	-.00(1716)	-.06(312)	.06(448)	.02(427)	-.02(529)
夫婦関係全体	.00(1779)	-.03(319)	.14(464) **	.04(437)	-.03(559)
トラブルやもめごとの認知	-.10(1791) *	-.06(319)	-.17(470) **	-.04(437)	-.07(565)

表11-3 結婚生活の諸側面に対する評価と本人年収全体との相関分析のコーホート比較(Spearman)

	相関係数				
	全体	夫(28-37才)	妻(28-37才)	夫(38-47才)	妻(38-47才)
心理的なサポート					
心配や悩みごとを聞いてくれる	.09(1481) *	.01(335)	-.03(258)	.08(450)	.02(438)
能力や努力の評価	.15(1480) **	.05(335)	-.03(258)	.06(450)	.05(437)
助言やアドバイス	.11(1481) **	.06(335)	-.05(258)	.06(450)	.05(438)
結婚生活の各側面における満足度					
配偶者の育児や子育て	.30(1301) **	.17(263) **	.03(219)	.15(417) **	.06(402)
あなたの親に対する接し方	.14(1336) **	.14(301) *	-.04(234)	.03(404)	.02(397)
配偶者の家事に対する取り組み	.31(1465) **	.04(330)	-.01(252)	.14(447) **	.00(436)
家計の分配や管理・運営	.24(1465) **	.13(332) *	-.02(251)	.16(447) **	.06(435)
性生活	.01(1397)	.01(323)	-.07(236)	-.00(432)	-.03(406)
夫婦関係全体	.16(1452) **	.09(331)	-.03(246)	.10(445) *	-.00(430)
トラブルやもめごとの認知	-.10(1464) *	-.09(331)	-.05(256)	-.06(445)	-.00(432)

* $p<.05$; ** $p<.01$
注：( )の中の数字はN

２）学歴、世帯年収、本人年収における階層と性別年代別コーホート

結婚生活の諸側面に対する評価について、学歴、世帯年収、本人年収における階層ごとに、性別年代別コーホートを比較する分析を通して、全体として以下のことが示された。第一に学歴、世帯年収、本人年収の各階層を通して、結婚生活の諸側面に対する評価におけるジェンダー差、年代差（同性内における年代による差異）のパターンに大きな違いは認められない。第二に差異が認められるのはジェンダー差であって、年代差は認められないか、認められても大きくはない。第三に結婚生活の諸側面に対する評価のうち、「性生活に対する満足度」と「トラブルやもめごとの認知」については、ジェンダー差も年代差もほとんど認められない。第四にジェンダー差は相対的に、「心理的なサポート」よりも「結婚生活の各側面における満足度」において大きい。

①学歴における階層と性別年代別コーホート

学歴における 3 階層ごとに、結婚生活の諸側面に対する評価について 4 コーホートの平均値と分散分析の結果を示した（表 11- 4、表 11- 5、表 11- 6）。その後多重比較を行ったが、表には示していない。

「心理的なサポート」については学歴における 3 階層を通して、「助言や努力の評価」を除いてジェンダー差も年代差もほとんど認められなかった。「助言や努力の評価」については、ジェンダー差が、「中学・高校」、「短大・専門学校」では両年代コーホートで認められ、「大学 4 年制以上」では 28-37 歳コーホートのみで認められた。年代差は、「中学・高校」の妻において「助言やアドバイス」に認められるのみであった。

「結婚生活の各側面における満足度」については、3 階層を通して、「性生活」に対する満足度を除くほとんどの変数においてジェンダー差が認められた。ジェンダー差が認められなかったのは、「中学・高校」では「あなたの親に対する接し方」(38-47 歳コーホート)、と「夫婦関係全体に対する満足度」(38-47 歳コーホート）だった。「短大・専門学校」では「あなたの親に対する接し方」(38-47 歳コーホート）だった。年代差は 3 階層を通して認められない変数が多かった。年代差が認められたのは、「中学・高校」では「あなたの親に対する接し方」（夫）と「夫婦関係全体に対する満足度」（夫）だった。「短大・専門学校」では「配偶者の育児や子育て」（妻）と「夫婦関係全体に対する満足度」（妻）だった。「大学 4 年制以上」では「配偶者の家事に対する取り組み」（妻）だった。

「トラブルやもめごとの認知」については、3 階層を通してジェンダー差も年代差も認められなかった。

表11-4 学歴：中学・高校

	平均値					分散分析(F値)
	全体	夫(28-37才)	妻(28-37才)	夫(38-47才)	妻(38-47才)	
心理的なサポート						
心配や悩みごとを聞いてくれる	3.15(811)	3.35(156)	3.18(224)	3.15(193)	2.99(238)	5.80(3) **
能力や努力の評価	2.94(810)	3.14(156)	2.87(224)	3.04(193)	2.78(237)	5.17(3) ***
助言やアドバイス	3.03(810)	3.19(156)	3.07(224)	3.06(193)	2.85(238)	5.40(3) **
結婚生活の各側面における満足度						
配偶者の育児や子育て	2.90(720)	3.29(124)	2.74(200)	3.11(183)	2.63(213)	27.83(3) ***
あなたの親に対する接し方	3.04(726)	3.25(141)	3.03(206)	3.04(169)	2.90(210)	6.72(3) ***
配偶者の家事に対する取り組み	2.80(799)	3.26(151)	2.56(220)	3.13(192)	2.47(236)	49.03(3) ***
家計の分配や管理・運営	2.88(797)	3.15(152)	2.80(220)	3.00(191)	2.69(234)	13.47(3) ***
性生活	2.82(747)	2.83(148)	2.83(202)	2.77(184)	2.84(213)	.36(3)
夫婦関係全体	3.00(789)	3.31(153)	2.94(217)	3.02(189)	2.85(230)	11.76(3) ***
トラブルやもめごとの認知	2.11(802)	2.15(154)	2.13(223)	2.06(191)	2.09(234)	.203(3)

** p<.01; *** p<.001
注：( )の中の数字はN、ただし分散分析については自由度

表11-5 学歴：短大・専門学校

	平均値					分散分析(F値)
	全体	夫(28-37才)	妻(28-37才)	夫(38-47才)	妻(38-47才)	
心理的なサポート						
心配や悩みごとを聞いてくれる	3.23(632)	3.51(61)	3.24(220)	3.34(59)	3.13(292)	3.93(3) **
能力や努力の評価	2.95(632)	3.30(61)	2.85(220)	3.27(59)	2.89(292)	7.64(3) ***
助言やアドバイス	3.06(632)	3.31(61)	3.05(220)	3.27(59)	2.98(292)	3.50(3) *
結婚生活の各側面における満足度						
配偶者の育児や子育て	2.82(576)	3.48(57)	2.83(200)	3.25(52)	2.62(276)	20.00(3) ***
あなたの親に対する接し方	2.98(583)	3.28(61)	2.97(209)	3.10(48)	2.91(269)	3.97(3) **
配偶者の家事に対する取り組み	2.62(629)	3.34(61)	2.51(220)	3.21(58)	2.42(290)	33.90(3) ***
家計の分配や管理・運営	2.87(628)	3.30(61)	2.82(218)	3.22(58)	2.76(291)	11.72(3) ***
性生活	2.85(591)	3.02(59)	2.85(208)	2.91(55)	2.80(269)	1.87(3)
夫婦関係全体	2.96(619)	3.34(61)	2.99(216)	3.21(58)	2.80(284)	11.38(3) ***
トラブルやもめごとの認知	2.15(627)	2.10(60)	2.30(220)	1.84(58)	2.11(289)	3.88(3) **

* p<.05; ** p<.01; *** p<.001
注：( )の中の数字はN、ただし分散分析については自由度

表11-6 学歴：大学4年制以上

	平均値					分散分析(F値)
	全体	夫(28-37才)	妻(28-37才)	夫(38-47才)	妻(38-47才)	
心理的なサポート						
心配や悩みごとを聞いてくれる	3.40(499)	3.53(128)	3.41(71)	3.42(219)	3.17(81)	4.08(3) **
能力や努力の評価	3.29(499)	3.44(128)	3.13(71)	3.32(219)	3.09(81)	5.07(3) **
助言やアドバイス	3.29(499)	3.40(128)	3.27(71)	3.27(219)	3.16(81)	1.75(3)
結婚生活の各側面における満足度						
配偶者の育児や子育て	3.25(432)	3.52(96)	3.02(59)	3.35(202)	2.80(75)	21.45(3) ***
あなたの親に対する接し方	3.21(458)	3.40(111)	3.06(68)	3.25(203)	2.97(76)	6.89(3) ***
配偶者の家事に対する取り組み	3.12(492)	3.42(126)	2.76(70)	3.33(217)	2.38(79)	49.43(3) ***
家計の分配や管理・運営	3.19(495)	3.33(127)	2.94(70)	3.26(218)	2.98(80)	8.87(3) ***
性生活	2.87(478)	2.94(124)	2.74(69)	2.92(212)	2.75(73)	1.84(3)
夫婦関係全体	3.24(491)	3.42(125)	3.04(70)	3.30(218)	2.95(78)	10.74(3) ***
トラブルやもめごとの認知	1.94(494)	1.88(127)	2.06(71)	1.92(217)	1.97(79)	.62(3)

** $p<.01$; *** $p<.001$
注：( )の中の数字はN、ただし分散分析については自由度

②世帯年収における階層と性別年代別コーホート

世帯年収における 3 階層ごとに、結婚生活の諸側面に対する評価について 4 コーホートの平均値と分散分析の結果を示した（表 11- 7、表 11- 8、表 11- 9)。その後多重比較を行ったが、表には示していない。

「心理的なサポート」については学歴や本人年収と比較すると、世帯年収の階層においてより多くの変数でジェンダー差が認められた。認められたのは、「400 万未満」では、「心理的なサポート」に関する 3 変数すべてであり（28-37 歳コーホート)、「400-700 万未満」では「能力や努力の評価」（両年齢コーホート）だった。「700 万以上」では「心理的なサポート」に関する 3 変数すべて（38-47 歳コーホート）と「能力や努力の評価」（28-37 歳コーホート）だった。年代差が認められたのは、「400 万未満」では、「心配や悩みごとを聞いてくれる」（夫）であった。「700 万以上」では「心配や悩みごとを聞いてくれる」（妻）と「助言やアドバイス」（妻）だった。

「結婚生活の各側面における満足度」については、3 階層を通して、「性生活」に対する満足度を除くほとんどの変数においてジェンダー差が認められた（ただし「400 万未満」の 28-37 歳コーホートでは、「性生活」に対する満足度におけるジェンダー差が認められた)。ジェンダー差が認められなかったのは、「400-700 万未満」では「あなたの親に対する接し方」（38-47 歳コーホート)、「700 万以上」では「夫婦関係全体に対する満足度」（28-37 歳コーホート）だった。年代差は 3 階層を通して認められない変数が多かった。年代差が認められたのは、「400-700 万未満」では「夫婦関係に対する全体的満足度」（夫)、「700 万以上」では「配偶者の育児や子育て」（妻)、「配偶者の家事に対する取り組み」（妻)、「夫婦

関係全体に対する満足度」（妻）だった。

「トラブルやもめごとの認知」については、3階層を通してジェンダー差も年代差も認められなかった。

表11-7 世帯年収：400万未満

	平均値					分散分析（F値）
	全体	夫(28-37才)	妻(28-37才)	夫(38-47才)	妻(38-47才)	
心理的なサポート						
心配や悩みごとを聞いてくれる	3.16(283)	3.52(69)	3.04(100)	3.05(38)	3.03(76)	5.12(3) **
能力や努力の評価	2.88(283)	3.21(69)	2.68(100)	3.03(38)	2.76(76)	6.12(3) ***
助言やアドバイス	3.00(283)	3.28(69)	2.90(100)	3.08(38)	2.84(76)	3.48(3) *
結婚生活の各側面における満足度						
配偶者の育児や子育て	2.84(243)	3.37(52)	2.61(90)	3.12(33)	2.59(68)	14.43(3) ***
あなたの親に対する接し方	2.91(252)	3.23(62)	2.78(91)	3.17(29)	2.69(70)	7.12(3) ***
配偶者の家事に対する取り組み	2.75(280)	3.37(68)	2.44(98)	3.22(38)	2.38(76)	30.52(3) ***
家計の分配や管理・運営	2.74(281)	3.16(69)	2.50(98)	3.08(38)	2.53(76)	13.03(3) ***
性生活	2.82(265)	3.02(66)	2.67(91)	2.81(37)	2.83(71)	2.90(3) *
夫婦関係全体	2.97(278)	3.40(68)	2.72(97)	3.12(38)	2.79(75)	11.55(3) ***
トラブルやもめごとの認知	2.35(275)	2.12(66)	2.51(98)	2.16(37)	2.43(74)	2.80(3) *

* $p<.05$; ** $p<.01$; *** $p<.001$
注：( )の中の数字はN、ただし分散分析については自由度

表11-8 世帯年収：400-700万未満

	平均値					分散分析（F値）
	全体	夫(28-37才)	妻(28-37才)	夫(38-47才)	妻(38-47才)	
心理的なサポート						
心配や悩みごとを聞いてくれる	3.25(807)	3.38(171)	3.27(239)	3.29(184)	3.09(213)	4.19(3) **
能力や努力の評価	3.03(806)	3.23(171)	2.88(239)	3.20(184)	2.91(212)	9.51(3) ***
助言やアドバイス	3.11(807)	3.18(171)	3.10(239)	3.15(184)	3.03(213)	1.21(3)
結婚生活の各側面における満足度						
配偶者の育児や子育て	2.96(722)	3.35(136)	2.82(219)	3.21(174)	2.64(193)	31.07(3) ***
あなたの親に対する接し方	3.10(740)	3.30(154)	3.04(227)	3.13(166)	2.99(193)	5.96(3) **
配偶者の家事に対する取り組み	2.84(799)	3.33(168)	2.55(238)	3.18(182)	2.50(211)	59.33(3) ***
家計の分配や管理・運営	2.96(800)	3.25(169)	2.87(238)	3.08(183)	2.71(210)	17.81(3) ***
性生活	2.85(768)	2.87(167)	2.86(230)	2.84(173)	2.82(198)	.15(3)
夫婦関係全体	3.07(793)	3.33(169)	3.01(237)	3.12(180)	2.89(207)	12.37(3) ***
トラブルやもめごとの認知	2.07(803)	2.08(170)	2.19(239)	1.96(183)	2.03(211)	1.99(3)

** $p<.01$; *** $p<.001$
注：( )の中の数字はN、ただし分散分析については自由度

表11-9 世帯年収：700万以上

	平均値					分散分析(F値)
	全体	夫(28-37才)	妻(28-37才)	夫(38-47才)	妻(38-47才)	
心理的なサポート						
心配や悩みごとを聞いてくれる	3.24(718)	3.47(83)	3.31(133)	3.34(220)	3.05(282)	8.80(3) ***
能力や努力の評価	3.07(718)	3.38(83)	3.05(133)	3.24(220)	2.86(282)	13.62(3) ***
助言やアドバイス	3.11(718)	3.46(83)	3.19(133)	3.21(220)	2.90(282)	12.33(3) ***
結婚生活の各側面における満足度						
配偶者の育児や子育て	2.98(649)	3.52(65)	2.92(112)	3.29(204)	2.65(268)	40.45(3) ***
あなたの親に対する接し方	3.08(654)	3.37(73)	3.10(124)	3.17(200)	2.93(257)	8.56(3) ***
配偶者の家事に対する取り組み	2.81(715)	3.27(83)	2.65(132)	3.27(219)	2.38(281)	66.44(3) ***
家計の分配や管理・運営	3.02(714)	3.27(82)	2.95(131)	3.21(219)	2.83(282)	15.83(3) ***
性生活	2.82(683)	2.85(79)	2.82(127)	2.86(217)	2.77(260)	.65(3)
夫婦関係全体	3.03(708)	3.34(82)	3.09(130)	3.21(219)	2.77(277)	20.08(3) ***
トラブルやもめごとの認知	2.00(713)	1.94(83)	2.02(133)	1.94(217)	2.07(280)	.93(3)

*** $p<.001$
注：( )の中の数字はN、ただし分散分析については自由度

③本人年収における階層と性別年代別コーホート

本人年収における 3 階層ごとに、結婚生活の諸側面に対する評価について 4 コーホートの平均値と分散分析の結果を示した（表 11- 10、表 11- 11、表 11- 12）。その後多重比較を行ったが、表には示していない。

「心理的なサポート」については本人年収における 3 階層を通して[1]、ジェンダー差が認められる変数は多くなかった。ジェンダー差が認められたのは、「400 万未満」では、「心配事や悩みを聞いてくれる」（28-37 歳コーホート）と「能力や努力の評価」（28-37 歳コーホートであり、「400-700 万未満」では「能力や努力の評価」（38-47 歳コーホート）だった。年代差も認められる変数は少なかったが、認められたのは、「400 万未満」では、「心配や悩みごとを聞いてくれる」（夫）と、「助言やアドバイス」（妻）だった。

「結婚生活の各側面における満足度」については、3 階層を通して、「性生活」に対する満足度を除くほとんどの変数においてジェンダー差が認められた。ジェンダー差が認められなかったのは、「400 万未満」では「あなたの親に対する接し方」（両年齢コーホート）と「夫婦関係全体に対する満足度」（38-47 歳コーホート）だった。年代差は 3 階層を通して認められない変数が多かった。年代差が認められたのは、「400 万未満」では「配偶者の家事に対する取り組み」（妻）だった。

[1]妻に関しては本人年収の区分を 4 段階に分けて（130 万未満=1, 130-400 万未満=2, 400-700 万未満=3, 700 万以上=4）分析を行ったが、異なる結果は得られなかった。

「トラブルやもめごとの認知」については、3階層を通してジェンダー差も年代差も認められなかった。

表11-10 本人年収：400万未満

	平均値					分散分析(F値)
	全体	夫(28-37才)	妻(28-37才)	夫(38-47才)	妻(38-47才)	
心理的なサポート						
心配や悩みごとを聞いてくれる	3.16(821)	3.45(124)	3.19(233)	3.06(86)	3.06(378)	6.70(3) ***
能力や努力の評価	2.96(820)	3.25(124)	2.97(233)	2.95(86)	2.87(377)	6.07(3) ***
助言やアドバイス	3.02(821)	3.26(124)	3.09(233)	2.99(86)	2.90(378)	5.90(3) **
結婚生活の各側面における満足度						
配偶者の育児や子育て	2.78(721)	3.27(95)	2.75(199)	3.05(78)	2.60(349)	19.85(3) ***
あなたの親に対する接し方	2.98(743)	3.20(112)	3.00(210)	3.01(74)	2.90(347)	4.83(3) **
配偶者の家事に対する取り組み	2.66(811)	3.30(123)	2.60(227)	3.01(85)	2.40(376)	43.37(3) ***
家計の分配や管理・運営	2.81(809)	3.14(123)	2.79(226)	2.94(85)	2.69(375)	11.13(3) ***
性生活	2.84(769)	2.93(120)	2.83(212)	2.80(82)	2.83(355)	.77(3)
夫婦関係全体	2.96(800)	3.31(123)	2.99(221)	3.02(84)	2.81(372)	12.46(3) ***
トラブルやもめごとの認知	2.17(810)	2.16(121)	2.27(231)	2.13(85)	2.11(373)	1.20(3)

** p<.01; *** p<.001
注：( )の中の数字はN、ただし分散分析については自由度

表11-11 本人年収：400-700万未満

	平均値					分散分析(F値)
	全体	夫(28-37才)	妻(28-37才)	夫(38-47才)	妻(38-47才)	
心理的なサポート						
心配や悩みごとを聞いてくれる	3.32(468)	3.40(179)	3.08(24)	3.34(219)	3.07(46)	2.98(3) *
能力や努力の評価	3.21(468)	3.26(179)	2.88(24)	3.28(219)	2.89(46)	4.65(3) **
助言やアドバイス	3.20(468)	3.26(179)	2.96(24)	3.24(219)	2.93(46)	2.82(3) *
結婚生活の各側面における満足度						
配偶者の育児や子育て	3.26(408)	3.44(140)	2.90(19)	3.25(208)	2.85(41)	10.19(3) ***
あなたの親に対する接し方	3.23(423)	3.36(159)	2.87(23)	3.23(203)	2.89(38)	6.76(3) ***
配偶者の家事に対する取り組み	3.16(462)	3.33(175)	2.58(24)	3.24(217)	2.35(46)	28.92(3) ***
家計の分配や管理・運営	3.13(464)	3.29(177)	2.75(24)	3.13(217)	2.70(46)	10.26(3) ***
性生活	2.86(445)	2.85(173)	2.65(23)	2.89(208)	2.83(41)	.68(3)
夫婦関係全体	3.20(461)	3.37(176)	2.92(24)	3.19(216)	2.76(45)	10.62(3) ***
トラブルやもめごとの認知	1.97(464)	1.98(178)	2.13(24)	1.93(217)	2.04(45)	.41(3)

* p<.05; ** p<.01; *** p<.001
注：( )の中の数字はN、ただし分散分析については自由度

表11-12 本人年収：700万以上

	平均値					分散分析(F値)
	全体	夫(28-37才)	妻(28-37才)	夫(38-47才)	妻(38-47才)	
心理的なサポート						
心配や悩みごとを聞いてくれる	3.36(192)	3.59(32)	3.00(1)	3.33(145)	3.21(14)	1.63(3)
能力や努力の評価	3.25(192)	3.47(32)	3.00(1)	3.21(145)	3.21(14)	1.31(3)
助言やアドバイス	3.24(192)	3.47(32)	3.00(1)	3.19(145)	3.21(14)	1.21(3)
結婚生活の各側面における満足度						
配偶者の育児や子育て	3.32(172)	3.64(28)	2.00(1)	3.34(131)	2.50(12)	13.08(3) ***
あなたの親に対する接し方	3.15(170)	3.47(30)	3.00(1)	3.10(127)	2.92(12)	2.55(3)
配偶者の家事に対する取り組み	3.27(192)	3.41(32)	2.00(1)	3.31(145)	2.64(14)	6.39(3) ***
家計の分配や管理・運営	3.27(192)	3.38(32)	2.00(1)	3.27(145)	3.07(14)	2.50(3)
性生活	2.83(183)	3.07(30)	3.00(1)	2.81(142)	2.40(10)	2.00(3)
夫婦関係全体	3.25(191)	3.53(32)	3.00(1)	3.22(145)	2.85(13)	3.84(3) *
トラブルやもめごとの認知	1.95(190)	1.91(32)	2.00(1)	1.93(143)	2.21(14)	.41(3)

* $p<.05$; *** $p<.001$
注：( )の中の数字はN、ただし分散分析については自由度

（3）小括

本報告の分析では、社会的経済的勢力を示す学歴、世帯年収、本人年収のそれぞれと結婚生活の諸側面に対する評価との関係にジェンダー差が存在することが明らかになった。その一方で、学歴、世帯年収、本人年収の階層ごとにおける性別年代別コーホート比較では、階層によるジェンダー差や年代差のパターンには大きな違いはなく、相対的にジェンダー差が年代差よりも大きいことが示された。

結婚生活の諸側面に対する評価におけるジェンダー差については、ほとんどの評価に関して妻の評価が夫より低い。本調査がペアデータではない点に留意する必要はあるが、結婚生活の諸側面に対する妻の評価が夫よりも低いことは多くの既存研究で示されている。今回分析で使用した変数は結婚生活の諸側面に対する主観的評価である。主観的な評価に対して、学歴、世帯年収、本人年収などの社会的経済的勢力を表す変数が影響を持ち、かつジェンダー差が認められるという分析結果は一考に価しよう。以後の調査では、性別役割分業から派生する、社会的経済的なジェンダー差が結婚や夫婦関係に及ぼす影響を調べるとともに、夫婦の評価差を引き起こす要因について研究を進めることが望まれる。

（土倉玲子）

12章　家族と仕事に関する悩み・葛藤：ジェンダー構造の地域差・階層差

本章では以下の４項目について、ジェンダー構造の地域差および階層差の分析を行なう。

・「子どものことで悩んだこと」

・「家事・育児・介護などでの負担が大きすぎると感じたこと」

・「家計の先行きについて不安を感じたこと」

・「仕事のために家族との時間がとれないと感じたこと」

これら４項目は本書６章の分析において比較的分散が大きく、配偶状態や性別による差がみられた項目であった。そのため本節においてさらに踏み込んで、ジェンダー構造の地域差や階層差について検討する。

分析方法は以下のとおりである。まず上記４項目を「何度もあった」＝４点～「まったくなかった」＝１点と数値化する。そのうえで地域規模別・学歴階層別・収入階層別・夫婦の就業形態別・世帯構成別に一元配置の分散分析を行なう。独立変数はコーホートおよび性別を組み合わせた変数（28 - 37 歳男性、28 - 37 歳女性、37 - 48 歳男性、37 - 48 歳女性の４カテゴリーをもつ変数）とする。なお分析対象は、調査時点で有配偶であるものに限定した。

（１）地域規模別分析

ここでは４つの質問項目について、14 大都市／10 万人以上の市／10 万人以下の市および町村別に、コーホートおよび性別によるカテゴリー間の差を検討する。

表 12-1 は「子どものことで悩んだこと」についての地域規模別の分析結果である。14 大都市、10 万人以上の市、10 万人以下の市および町村のいずれにおいても、カテゴリー間の差が有意である。平均値をみるといずれの規模の地域においても、性別による差が顕著であり、28 - 37 歳層・38 - 47 歳層ともに女性のほうが子どものことで悩んだ頻度が高い。

表 12- 1　子どものことで悩んだこと

	14 大都市	10 万人以上	10 万人以下
N	399	685	659
df	3	3	3
F	13.26	28.54	21.47
p	p<.001	p<.001	p<.001
平均値			
28－37 歳男性	1.96	1.92	1.92
28－37 歳女性	2.73	2.67	2.53
38－47 歳男性	2.10	2.04	2.01
38－47 歳女性	2.64	2.68	2.63

表 12-2 で「家事・育児・介護などでの負担が大きすぎると感じたこと」についてみると、いずれの規模の地域においても、カテゴリー間の差が有意である。いずれの地域においても性別による差が顕著であるが、10 万人以上の市においてはさらに、女性間でコーホートによる差がみられる（10 万人以上の市の女性についての一元配置の分散分析の結果：F=5.71, p<.05)。10 万人以上の市においては 38 - 47 歳女性よりも 28 - 37 歳女性のほうが、家事・育児・介護などでの負担を感じた頻度が高い。

表 12- 2　家事・育児・介護などでの負担が大きすぎると感じたこと

	14 大都市	10 万人以上	10 万人以下
N	461	763	728
df	3	3	3
F	29.14	45.35	31.27
p	p<.001	p<.001	p<.001
平均値			
28－37 歳男性	1.18	1.17	1.29
28－37 歳女性	2.01	2.03	1.90
38－47 歳男性	1.27	1.24	1.34
38－47 歳女性	1.96	1.81	1.97

表 12-3 は「家計の先行きについて不安を感じたこと」の分析結果を示す。いずれの規模の地域においてもカテゴリー間の差が有意である。またいずれの地域においても性別による差が顕著であり、28 - 37 歳層・38 - 47 歳層ともに女性のほうが家計の先行きについて不安を感じた頻度が高い。

表 12- 3　家計の先行きについて不安を感じたこと

	14 大都市	10 万人以上	10 万人以下
N	461	763	729
df	3	3	3
F	3.90	12.81	5.95
p	p<.01	p<.001	p<.01
平均値			
28－37 歳男性	1.95	1.85	1.97
28－37 歳女性	2.38	2.44	2.33
38－47 歳男性	2.02	1.97	2.03
38－47 歳女性	2.31	2.35	2.34

表 12-4 は「仕事のために家族との時間がとれないと感じたこと」についての結果である。すべての地域規模においてカテゴリー間の差が有意である。カテゴリー間の平均値を詳細にみると、14 大都市においては 28 - 37 歳層においては男女間の差が有意で、男性のほうが仕事のために家族との時間がとれないと感じた頻度が高い。しかし 38 - 47 歳層では性別に

よる差は有意ではない。一方 10 万人以上の市においては 28 - 37 歳層の性別による差は有意ではないが、38 - 47 歳層では性別による差が有意である。10 万人以下の市および町村では、28 - 37 歳層・38 - 47 歳層ともに性別による差が有意であるが、平均値をみると、28－37 歳男性の悩みの頻度の高さが際立っている。

表 12- 4　仕事のために家族との時間がとれないと感じたこと

	14 大都市	10 万人以上	10 万人以下
N	325	546	566
df	3	3	3
F	2.67	2.83	8.80
p	p<.05	p<.05	p<.001
平均値			
28－37 歳男性	2.46	2.09	2.43
28－37 歳女性	2.00	2.00	2.05
38－47 歳男性	2.27	2.14	2.10
38－47 歳女性	2.03	1.83	1.80

（2）学歴階層別分析

ここでは学歴階層別に、コーホートおよび性別によるカテゴリー間の差を検討する。学歴は、中学・高校／短大・高専／大学以上の３カテゴリーに分ける。

「子どものことで悩んだこと」については、すべての学歴階層においてカテゴリー間の差が有意である（表５）。学歴階層ごとに平均値を詳細にみると、中学・高校層および短大・高専では 28 - 37 歳層・38 - 47 歳層ともに性別による差が顕著である。男性よりも女性のほうが、悩んだ頻度が高い。大学以上の学歴階層では、性別による差に加えて、女性においてはコーホート間の差が有意である（大学卒以上の女性についての一元配置の分散分析の結果：F=4.34, p<.05)。38 - 47 歳女性に比べて 28 - 37 歳女性のほうが、子どものことで悩んだ頻度が高い。

表 12- 5　子どものことで悩んだこと

	中学・高校	短大・高専	大学
N	723	574	436
df	3	3	3
F	21.96	6.72	20.58
p	p<.001	p<.001	p<.001
平均値			
28－37 歳男性	1.93	2.13	1.85
28－37 歳女性	2.58	2.62	2.87
38－47 歳男性	2.06	2.30	1.97
38－47 歳女性	2.61	2.72	2.51